

# 第4回「秋田県内企業の景気動向調査」結果

(平成24年5月調査)

## 【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」でみると、前年同期において東日本大震災の影響で大幅に業績を落とした企業が多かったこともあり、8.6(前回調査比 15.6ポイント上昇)と「良い」超に転じ、昨年8月の調査開始以来初のプラスとなった。また、「自社の業界DI値(前期比)」でも▲3.6(同 1.7ポイント上昇)となるなど、県内企業の業況には持ち直しの動きが見られた。
- **業種別**にみると、「自社の業況DI値(前年同期比)」が、建設業で5.0(前回調査比 17.9ポイント上昇)、卸・小売業で4.9(同 24.4ポイント上昇)、サービス業で21.5(同 22.7ポイント上昇)といずれもDI値がプラスに転じ、「自社の業況DI値(前期比)」でもDI値が前回調査に比べて上昇するなど、回復の動きが見られた。一方、製造業の「自社の業況DI値(前年同期比)」は3.5と引き続きプラスながら前回調査比で3.4ポイント下落し、「自社の業況DI値(前期比)」でも▲14.3(同 23.9ポイント下落)と大幅な悪化となった。
- **地域別**にみると、「自社の業況DI値(前年同期比)」が、県北で5.3(前回調査比 23.7ポイント上昇)、中央で15.6(同 16.7ポイント上昇)と「良い」超に転じ、県南では▲3.3(同 9.7ポイント上昇)と依然「悪い」超ながら前回調査に比べてマイナス幅が縮小しており、いずれの地域にも回復の動きが見られた。また、「自社の業況DI値(前期比)」でみると、中央で0.8(同 1.9ポイント上昇)、県北では▲1.3(同 13.0ポイント上昇)と前回調査に比べ改善したものの、県南は▲13.9(同 4.8ポイント下落)と小幅ながら悪化している。
- **先行き見通し**は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲10.2(今回調査比 18.8ポイント下落)と、一転して悪化が見込まれており、売上高、営業利益、資金繰りがいずれも2ケタ台のマイナスとなっている。この要因について個別企業のコメントみると、依然として先行き不透明な内外経済情勢のほか、デフレ環境下での販売価格の低下、燃料や原材料価格の高止まり、円高や今夏の電力不足への懸念などを挙げる企業が多い。
- **特別調査**
  1. **夏季ボーナス**の支給動向(予定)について尋ねたところ、回答企業(442社)の52.7%が「支給する」と回答しており、今回調査の山形(49.1%)の割合を3.6ポイント上回った。一方、「支給しない」と回答した企業は21.0%で、山形(26.3%)に比べて5.3ポイント低い割合となった。
  2. **新卒者の採用状況(平成24年度)**について尋ねたところ、全業種で23.1%の企業が新卒者を採用したと回答しており、今回調査の山形の32.3%に比べて9.2ポイント低い割合となっている。

平成24年5月

株式会社フィデア総合研究所

## 目次

I. 県内企業の業況.....	1
1. 概況.....	1
2. 業種別の動向.....	2
(1)業種別の概況.....	2
(2)業種別D I 値の動向.....	3
3. 地域別の動向.....	7
(1)地域別の概況.....	7
(2)地域別D I 値の動向.....	8
II. 景気の天気予報図.....	11
III. 特別調査.....	12
1. 夏季ボーナスについて.....	12
(1)支給予定動向.....	12
(2)支給予定額について.....	13
2. 新卒者の採用状況について.....	14
<参考資料II：調査の概要>.....	15

## I. 県内企業の業況

### 1. 概況

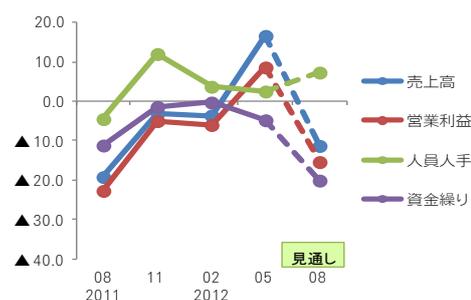
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況D I 値(前年同期比)」でみると、前年同期において東日本大震災の影響で大幅に業績を落とした企業が多かったこともあり、8.6(前回調査比 15.6 ポイント上昇)と「良い」超に転じ、今回調査の山形におけるD I 値の 16.6(同 17.8 ポイント上昇)には及ばなかったものの、昨年8月の調査開始以来初のプラスとなった。また、「自社の業界D I 値(前期比)」でも▲3.6(同 1.7 ポイント上昇)となるなど、県内企業の業況には持ち直しの動きが見られた。

先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲10.2(今回調査比 18.8 ポイント下落)と、一転して悪化が見込まれており、売上高、営業利益、資金繰りがいずれも2ケタ台のマイナスとなっている。この要因について個別企業のコメントみると、依然として先行き不透明な内外経済情勢のほか、デフレ環境下での販売価格の低下、燃料や原材料価格の高止まり、円高や今夏の電力不足への懸念などを挙げる企業が多い。

図表 1 全業種「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 2 全業種「各種D I 値(前年同期比)」の推移



#### 前年同期比の自社業況D I 値

全業種 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 23.08 (n=312)	▲25.0	-	-	▲19.2	▲22.7	▲4.5	▲11.2
H 23.11 (n=300)	▲4.0	21.0	▲13.8	▲3.0	▲5.0	12.0	▲1.4
H 24.02(n=302)	▲7.0	▲3.0	▲23.0	▲3.6	▲6.0	3.7	▲0.3
H 24.05(n=442)	8.6	(15.6)	▲25.5	16.6	8.6	2.5	▲4.8
前回調査比	-	-	-	(20.2)	(14.6)	(▲1.2)	(▲4.5)
先行き見通し	▲10.2	-	-	▲11.3	▲15.4	7.3	▲20.1
今回調査比	(▲18.8)	-	-	(▲27.9)	(▲24.0)	(4.8)	(▲15.3)

#### 【参考】前期比の自社業況D I 値

全業種 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
	前回調査比					
H 23.08 (n=312)	▲10.8	-	▲8.6	▲14.2	▲1.4	▲17.6
H 23.11 (n=300)	7.7	18.5	8.0	▲1.3	9.3	▲0.3
H 24.02(n=302)	▲5.3	▲13.0	1.3	▲6.3	3.0	▲1.7
H 24.05(n=442)	▲3.6	(1.7)	▲6.1	▲5.0	1.1	▲10.2
前回調査比	-	-	(▲7.4)	(1.3)	(▲1.9)	(▲8.5)

※「売上高」D I 値は建設業の「完成工事高」を含んだ値。

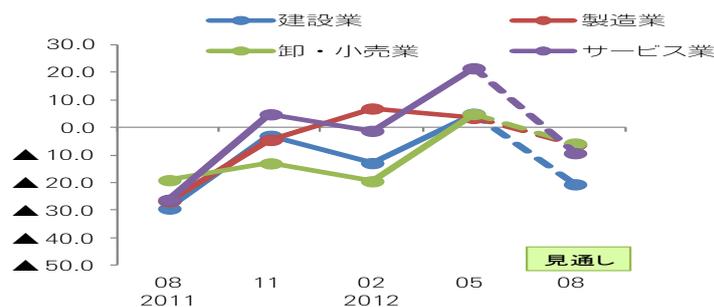
## 2. 業種別の動向

### (1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、建設業で5.0（前回調査比 17.9 ポイント上昇）、卸・小売業で4.9（同 24.4 ポイント上昇）、サービス業で21.5（同 22.7 ポイント上昇）といずれもDI値がプラスに転じ、「自社の業況DI値（前期比）」でもDI値が前回調査に比べて上昇するなど、回復の動きが見られた。一方、製造業の「自社の業況DI値（前年同期比）」は3.5と引き続きプラスながら前回調査比で3.4ポイント下落し、「自社の業況DI値（前期比）」でも▲14.3（同 23.9 ポイント下落）と大幅な悪化となった。この要因としては、売上の伸び悩みに加え、燃料や原材料価格の高騰などを映じて営業利益が減益傾向を強めていることなどが考えられる。

先行き見通しは全業種で悪化の見通しとなっており、特に建設業▲20.6（今回調査比 25.6 ポイント下落）やサービス業▲9.3（同 30.8 ポイント下落）において悪化幅が大きくなっている。

図表 3 業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=312)	▲ 25.0	▲ 29.4	▲ 26.7	▲ 19.1	▲ 26.2
H 23.11 (n=300)	▲ 4.0	▲ 3.0	▲ 4.5	▲ 13.0	4.8
H 24.02 (n=302)	▲ 7.0	▲ 12.9	6.9	▲ 19.5	▲ 1.2
H 24.05 (n=442)	8.6	5.0	3.5	4.9	21.5
前回調査比	(15.6)	(17.9)	(▲ 3.4)	(24.4)	(22.7)
先行き見通し	▲ 10.2	▲ 20.6	▲ 6.2	▲ 5.8	▲ 9.3
今回調査比	(▲ 18.8)	(▲ 25.6)	(▲ 9.7)	(▲ 10.7)	(▲ 30.8)

【参考】前期比の自社業況DI値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.08 (n=312)	▲ 10.8	▲ 18.2	▲ 7.6	▲ 5.9	▲ 13.3
H 23.11 (n=300)	7.7	6.1	10.6	▲ 2.4	16.9
H 24.02 (n=302)	▲ 5.3	▲ 9.7	9.6	▲ 17.3	▲ 2.5
H 24.05 (n=442)	▲ 3.6	1.0	▲ 14.3	▲ 7.4	7.5
前回調査比	(1.7)	(10.7)	(▲ 23.9)	(9.9)	(10.0)

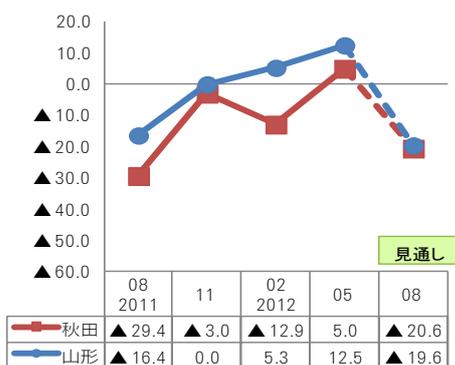
## (2)業種別DI値の動向

### ① 建設業

「自社の業況DI値(前年同期比)」は5.0(前回調査比 17.9ポイント上昇)と山形の12.5(同7.2ポイント上昇)には依然及ばないものの、昨年8月の調査開始以来初の「良い」超となり、「自社の業況DI値(前期比)」をみても1.0(同10.7ポイント上昇)とプラスに転じるなど、総じてみれば回復の動きとなった。この要因としては、公共工事は依然減少基調ながら、一部の復興関連需要が受注増に寄与していることなどが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲20.6(今回調査比 25.6ポイント下落)と再び悪化が見込まれている。企業間でバラツキはあるものの、足元は繰越工事が総じて少なく、今後も公共工事の減少が見込まれることに加え、原材料価格の高騰や高止まりへの懸念が色濃く見られる。

図表4 建設業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表5 建設業「各種DI値(前年同期比)」の推移



#### 前年同期比の自社業況DI値

建設業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
H23.08 (n=068)	▲29.4	-	-	▲30.9	▲36.8	▲28.0	▲13.3	▲3.0
H23.11 (n=066)	▲3.0	26.4	▲39.7	▲10.6	▲18.2	▲10.6	12.1	▲3.0
H24.02 (n=062)	▲12.9	▲9.9	▲36.3	▲17.7	▲11.3	▲20.9	▲6.5	▲4.8
H24.05 (n=102)	5.0	(17.9)	▲41.9	9.8	11.8	0.0	▲1.0	0.0
前回調査比	-	-	-	(27.5)	(23.1)	(20.9)	(5.5)	(4.8)
先行き見通し	▲20.6	-	-	▲24.5	▲24.5	▲25.5	3.9	▲31.4
今回調査比	(▲25.6)	-	-	(▲34.3)	(▲36.3)	(▲25.5)	(4.9)	(▲31.4)

#### 【参考】前期比の自社業況DI値

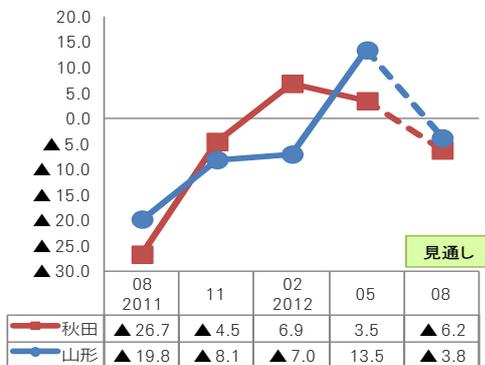
建設業 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比						
H23.08 (n=068)	▲18.2	-	▲17.3	▲29.8	▲9.6	1.0	▲27.9
H23.11 (n=066)	6.1	24.3	▲1.5	▲15.2	3.0	12.1	1.5
H24.02 (n=062)	▲9.7	▲15.8	▲6.5	▲6.4	▲27.4	▲8.0	▲4.8
H24.05 (n=102)	1.0	(10.7)	▲6.9	0.0	▲12.8	▲2.9	▲6.9
前回調査比	-	-	(▲0.4)	(6.4)	(14.6)	(5.1)	(▲2.1)

## ② 製造業

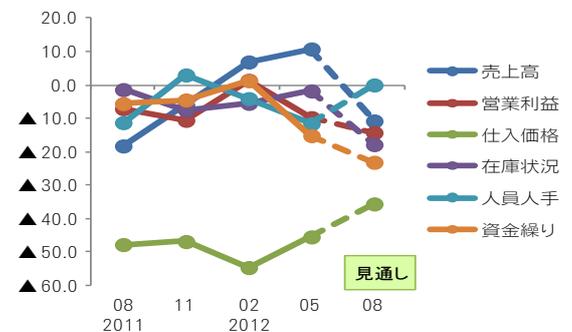
「自社の業況DI値(前年同期比)」は3.5(前年同期比3.4ポイント下落)と2期連続のプラスとなったものの、前回調査に比べて小幅ながら悪化し、「自社の業況DI値(前期比)」では▲14.3(同23.9ポイント下落)と大きく落ち込んでいる。原材料価格等の高騰や高止まりを映じて減益傾向が続いており、また、「各種DI値(前期比)」でみると、足元の売上高は▲13.4(同27.1ポイント下落)と減益傾向を示している。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲6.2(今回調査比9.7ポイント下落)となり、悪化が見込まれている。仕入価格の上昇は幾分緩和に向かうものの、内外経済情勢の先行き不透明な状況を映じて、売上高や営業利益は減少の見通しとなっている。

図表6 製造業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表7 製造業「各種DI値(前年同期比)」の推移



### 前年同期比の自社業況DI値

製造業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測	今回調査比						
H23.08(n=071)	▲26.7	-	-	▲18.3	▲7.1	▲47.9	▲1.4	▲11.3	▲5.6
H23.11(n=066)	▲4.5	22.2	5.7	▲6.1	▲10.6	▲47.0	▲7.5	3.0	▲4.5
H24.02(n=073)	6.9	11.4	-6.1	6.9	1.4	▲54.8	▲5.5	▲4.1	1.3
H24.05(n=112)	3.5	(▲3.4)	▲13.7	10.8	▲9.8	▲45.6	▲1.8	▲11.6	▲15.2
前回調査比	-	-	-	(3.9)	(▲11.2)	(9.2)	(3.7)	(▲7.5)	(▲16.5)
先行き見通し	▲6.2	-	-	▲10.8	▲14.3	▲35.7	▲17.9	0.0	▲23.2
今回調査比	(▲9.7)	-	-	(▲21.6)	(▲4.5)	(9.9)	(▲16.1)	(11.6)	(▲8.0)

### 【参考】前期比の自社業況DI値

製造業 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	今回調査比						
H23.08(n=071)	▲7.6	-	▲5.1	▲17.2	▲42.0	▲3.8	▲12.1	▲21.0
H23.11(n=066)	10.6	18.2	10.6	1.5	▲30.3	▲15.2	▲3.0	▲7.6
H24.02(n=073)	9.6	▲1.0	13.7	▲8.3	▲34.3	▲11.0	0.0	▲5.5
H24.05(n=112)	▲14.3	(▲23.9)	▲13.4	▲18.8	▲32.1	▲7.1	▲10.7	▲16.0
前回調査比	-	-	(▲27.1)	(▲10.5)	(2.2)	(3.9)	(▲10.7)	(▲10.5)

### ③ 卸・小売業

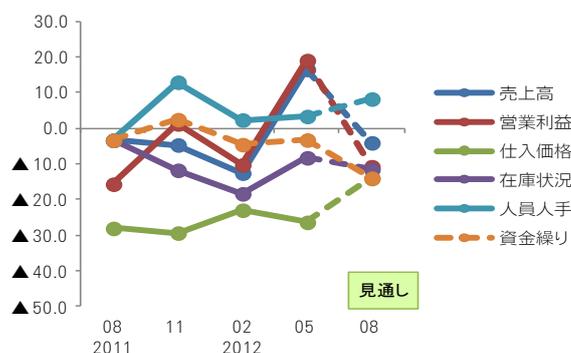
「自社の業況DI値(前年同期比)」は4.9(前回調査比 24.4 ポイント上昇)と「良い」超に転じ、また、「自社の業況DI値(前期比)」でも▲7.4(同 9.9 ポイント上昇)となるなど、総じて回復の動きが見られた。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「仕入価格」は▲26.4(同 3.4 ポイント下落)と依然高止まっているものの、エコカー補助金制度の復活など政策効果の下支えもあり、「売上高」が 16.5(同 29.1 イント上昇)と増加傾向を強め、「営業利益」は 19.0(同 29.3 ポイント上昇)と増益基調に転じている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲5.8(今回調査比 10.7 ポイント下落)となり、一部に社会経済情勢の先行き不透明な状況を映じた消費マインドの慎重化や政策効果の剥落に対する懸念が見られ、再び悪化が見込まれている。仕入価格の上昇には徐々に歯止めがかかるものの、売上や営業利益が減少予想となっている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表 9 卸・小売業「各種DI値(前年同期比)」の推移



#### 前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H23.08 (n=089)	▲19.1	-	-	▲3.4	▲15.7	▲28.1	▲3.4	▲3.4	▲3.4
H23.11(n=085)	▲13.0	6.1	▲4.5	▲4.7	1.2	▲29.4	▲11.8	12.9	2.4
H24.02 (n=087)	▲19.5	▲6.5	▲25.8	▲12.6	▲10.3	▲23.0	▲18.4	2.3	▲4.6
H24.05 (n=121)	4.9	(24.4)	▲33.4	16.5	19.0	▲26.4	▲8.3	3.3	▲3.3
前回調査比	-	-	-	(29.1)	(29.3)	(▲3.4)	(10.1)	(1.0)	(1.3)
先行き見通し	▲5.8	-	-	▲4.1	▲10.8	▲14.1	▲11.6	8.2	▲14.0
今回調査比	(▲10.7)	-	-	(▲20.6)	(▲29.8)	(12.3)	(▲3.3)	(4.9)	(▲10.7)

#### 【参考】前期比の自社業況DI値

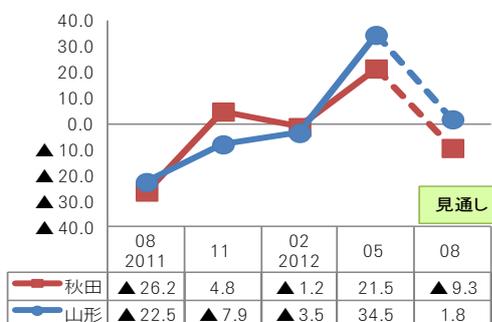
卸・小売業 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比							
H23.08 (n=089)	▲5.9	-	▲10.1	▲7.5	▲30.3	▲2.5	▲2.5	▲12.6
H23.11(n=085)	▲2.4	3.5	4.7	1.1	▲15.3	▲10.6	11.8	3.5
H24.02 (n=087)	▲17.3	▲14.9	▲6.9	▲11.5	▲27.6	▲16.1	1.2	▲3.5
H24.05 (n=121)	▲7.4	(9.9)	▲4.1	▲2.5	▲22.3	▲14.1	1.7	▲9.9
前回調査比	-	-	(2.8)	(9.0)	(5.3)	(2.0)	(0.5)	(▲6.4)

### ④ サービス業

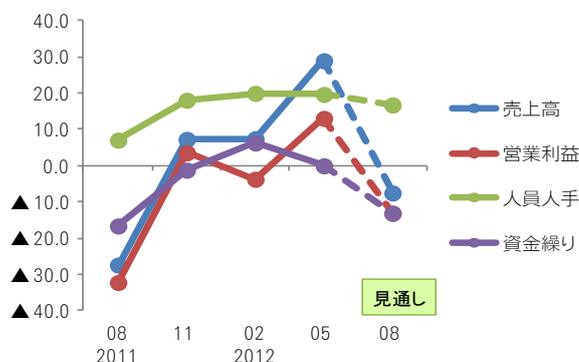
「自社の業況DI値(前年同期比)」は21.5(前回調査比 22.7ポイント上昇)と山形の34.5(同 38.0ポイント上昇)には及ばなかったものの、前年の震災発生後の観光関連の落ち込みの反動もあって大幅な「良い」超に転じ、また、「自社の業況DI値(前期比)」でも7.5(同 10.0ポイント上昇)とプラスになるなど回復が見られた。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「売上高」が29.0(同 21.5ポイント上昇)、「営業利益」が13.1(同 16.8ポイント上昇)と大幅に増加したほか、「人員人手」は19.7(同 0.3ポイント低下)と引き続き不足感を示している。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲9.3(今回調査比 30.8ポイント下落)と一転して悪化が見込まれており、一部に復興関連需要への期待感が窺えるものの、総じてみれば、消費抑制懸念に加え、燃料費や電気料の上昇に対する不安感が色濃く見られる。

図表 10 サービス業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表 11 サービス業「各種DI値(前年同期比)」の推移



#### 前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)		売上高	営業利益	人員人手	資金繰り	
	前回調査比	前回調査予測					
H23.08(n=084)	▲26.2	-	▲27.4	▲32.2	7.1	▲16.6	
H23.11(n=083)	4.8	31.0	7.3	3.6	18.1	▲1.2	
H24.02(n=080)	▲1.2	▲6.0	7.5	▲3.7	20.0	6.3	
<b>H24.05(n=107)</b>	21.5	(22.7)	▲15.0	29.0	13.1	19.7	0.0
前回調査比	-	-	(21.5)	(16.8)	(▲0.3)	(▲6.3)	
先行き見通し	▲9.3	-	▲7.5	▲13.1	16.8	▲13.1	
今回調査比	(▲30.8)	-	(▲36.5)	(▲26.2)	(▲2.9)	(▲13.1)	

#### 【参考】前期比の自社業況DI値

サービス業 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測				
H23.08(n=084)	▲13.3	-	▲4.2	▲3.4	11.6	▲9.2
H23.11(n=083)	16.9	30.2	16.9	4.8	14.5	0.0
H24.02(n=080)	▲2.5	▲6.0	5.0	1.3	16.3	6.3
<b>H24.05(n=107)</b>	7.5	(10.0)	0.0	1.8	16.9	▲7.5
前回調査比	-	-	(▲5.0)	(0.5)	(0.6)	(▲13.8)

### 3. 地域別の動向

#### (1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、県北で5.3(前回調査比23.7ポイント上昇)、中央で15.6(同16.7ポイント上昇)と「良い」超に転じ、県南では▲3.3(同9.7ポイント上昇)と依然「悪い」超ながら前回調査に比べてマイナス幅が縮小しており、いずれの地域にも回復の動きが見られた。また、「自社の業況DI値(前期比)」でみると、中央で0.8(同1.9ポイント上昇)、県北では▲1.3(同13.0ポイント上昇)と前回調査に比べ改善したものの、県南は▲13.9(同4.8ポイント下落)と小幅ながら悪化している。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が県北で▲9.3(今回調査比14.6ポイント下落)、中央で▲6.5(同22.1ポイント下落)、県南で▲18.0(同14.7ポイント下落)といずれも「悪い」超となり、各地域とも悪化の見込みとなっている。

図表 12 地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			
	全地域	県北	中央	県南
H 23.08 (n=312)	▲25.0	▲41.3	▲24.0	▲18.4
H 23.11 (n=300)	▲4.0	6.7	▲3.4	▲11.3
H 24.02 (n=302)	▲7.0	▲18.4	▲1.1	▲13.0
H 24.05 (n=442)	8.6	5.3	15.6	▲3.3
前回調査比	(15.6)	(23.7)	(16.7)	(9.7)
先行き見通し	▲10.2	▲9.3	▲6.5	▲18.0
今回調査比	(▲18.8)	(▲14.6)	(▲22.1)	(▲14.7)

【参考】前期比の自社業況DI値

地域別 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)			
	全地域	県北	中央	県南
H 23.08 (n=312)	▲10.8	▲3.8	▲22.4	▲2.2
H 23.11 (n=300)	7.7	13.4	6.9	6.3
H 24.02 (n=302)	▲5.3	▲14.3	▲1.1	▲9.1
H 24.05 (n=442)	▲3.6	▲1.3	0.8	▲13.9
前回調査比	(1.7)	(13.0)	(1.9)	(▲4.8)

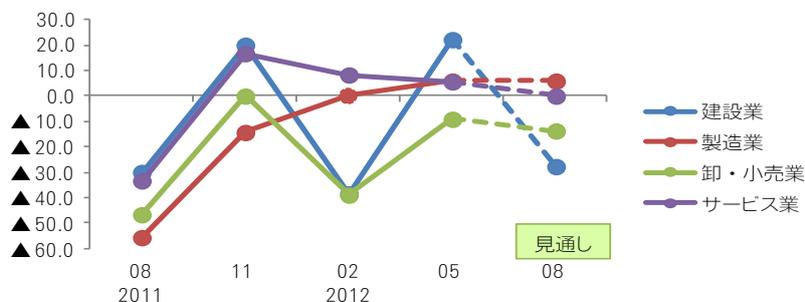
## (2) 地域別DI値の動向

### ① 県北

「自社の業況DI値(前年同期比)」は5.3(前回調査比 23.7ポイント上昇)とプラスに転じ、「自社の業況DI値(前期比)」でも▲1.3(同 13.0ポイント上昇)と依然「悪い」超ながら、前回調査に比べてマイナス幅が縮小するなど、回復が見られた。業種別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、建設業が22.2(同 60.6ポイント)と大幅なプラスに転じるなど、総じて回復の動きが見られたものの、「自社の業況DI値(前期比)」では、製造業が▲17.7(同 28.8ポイント下落)とマイナスに転じ、前回調査に比べて大幅な悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲9.3(前回調査比 14.6ポイント下落)と再び悪化が見込まれており、製造業が横ばいを見込む一方、建設業を始め、他の業種では悪化の見通しとなっている。

図表 13 県北業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

県北 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 23.08 (n=46)	▲ 41.3	▲ 30.0	▲ 55.6	▲ 46.6	▲ 33.3
H 23.11 (n=45)	6.7	20.0	▲ 14.3	0.0	16.7
H 24.02 (n=049)	▲ 18.4	▲ 38.4	0.0	▲ 38.9	8.3
H 24.05 (n=075)	5.3	22.2	5.9	▲ 9.1	5.6
前回調査比	(23.7)	(60.6)	(5.9)	(29.8)	(▲ 2.7)
先行き見通し	▲ 9.3	▲ 27.7	5.9	▲ 13.7	0.0
今回調査比	(▲ 14.6)	(▲ 49.9)	(0.0)	(▲ 4.6)	(▲ 5.6)

【参考】前期比の自社業況DI値

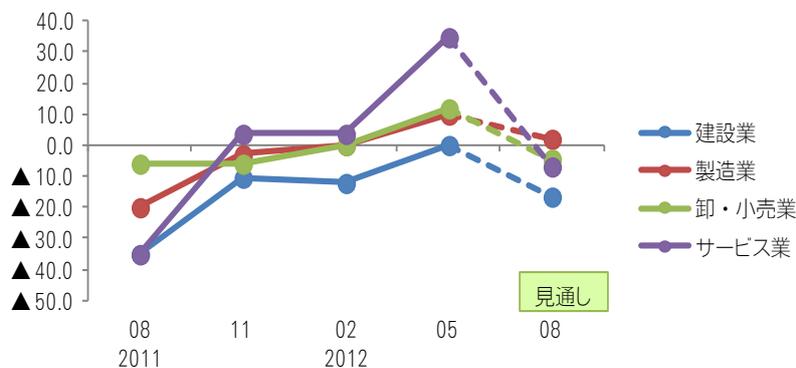
県北 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 23.08 (n=46)	▲ 3.8	▲ 22.2	3.1	5.4	▲ 9.5
H 23.11 (n=45)	13.4	20.0	0.0	12.5	16.7
H 24.02 (n=049)	▲ 14.3	▲ 30.8	11.1	▲ 38.9	8.3
H 24.05 (n=075)	▲ 1.3	5.5	▲ 17.7	0.0	5.5
前回調査比	(13.0)	(36.3)	(▲ 28.8)	(38.9)	(▲ 2.8)

## ② 中央

「自社の業況DI値(前年同期比)」は15.6(前回調査比16.7ポイント上昇)とプラスに転じ、「自社の業況DI値(前期比)」でも0.8(同1.9ポイント上昇)と小幅ながらプラスとなるなど、回復の動きとなった。業種別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、建設業が0.0(同12.2ポイント上昇)で、サービス業の34.7(同31.1ポイント上昇)を始め、その他の業種ではプラスとなるなど各業種とも回復となったものの、「自社の業況DI値(前期比)」では、製造業では▲11.8(同14.5ポイント下落)、卸・小売業で▲5.9(同3.8ポイント下落)と悪化している。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲6.5(今回調査比22.1ポイント下落)と一転して悪化の見込みとなっている。業種別では、製造業のDI値がプラスを維持しているものの、いずれの業種でも今回調査に比べて悪化の見通しとなっている。

図表 14 中央業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

中央 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 23.08 (n=179)	▲24.0	▲35.1	▲20.0	▲6.0	▲35.1
H 23.11 (n=176)	▲3.4	▲10.5	▲3.0	▲6.0	3.6
H 24.02 (n=176)	▲1.1	▲12.2	0.0	0.0	3.6
H 24.05 (n=245)	15.6	0.0	9.8	11.8	34.7
前回調査比	(16.7)	(12.2)	(9.8)	(11.8)	(31.1)
先行き見通し	▲6.5	▲16.6	2.0	▲4.4	▲6.9
今回調査比	(▲22.1)	(▲16.6)	(▲7.8)	(▲16.2)	(▲41.6)

【参考】前期比の自社業況DI値

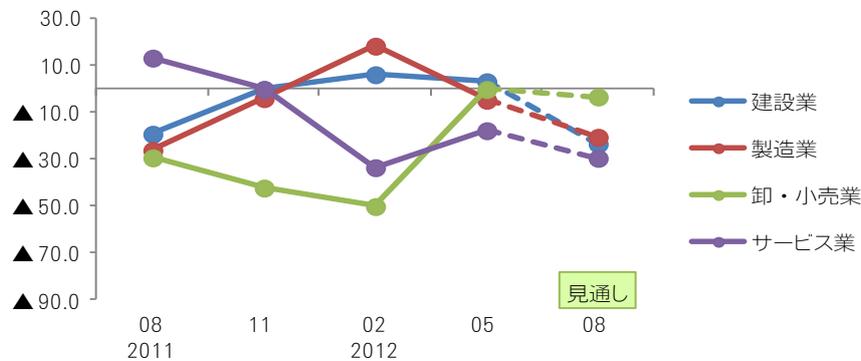
中央 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 23.08 (n=179)	▲22.4	▲25.0	▲27.6	▲7.2	▲25.0
H 23.11 (n=176)	6.9	0.0	3.1	0.0	20.0
H 24.02 (n=176)	▲1.1	▲9.1	2.7	▲2.1	1.8
H 24.05 (n=245)	0.8	7.4	▲11.8	▲5.9	11.2
前回調査比	(1.9)	(16.5)	(▲14.5)	(▲3.8)	(9.4)

### ③ 県南

「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲3.3(前回調査比 9.7 ポイント上昇)と依然「悪い」超ながら、前回調査に比べてマイナス幅が縮小するなど、回復の動きが見られた。反面、「自社の業況DI値(前期比)」では▲13.9(同 4.8 ポイント下落)と悪化しており、総じてみれば回復感の乏しさが窺えた。業種別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、製造業で▲4.6(同 23.1 ポイント下落)と大幅な悪化となったものの、卸・小売業では 0.0(同 50.0 ポイント上昇)、サービス業で▲17.6(同 15.8 ポイント上昇)と回復の動きが見られた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲18.0(今回調査比 14.7 ポイント下落)と悪化の見通しとなっており、業種毎にバラツキはあるものの、各業種とも業況の悪化が見込まれている。

図表 15 県南業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

県南 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 23.08 (n=87)	▲18.4	▲19.1	▲26.0	▲29.2	13.4
H 23.11 (n=79)	▲11.3	0.0	▲3.9	▲42.1	0.0
H 24.02 (n=77)	▲13.0	6.3	18.5	▲50.0	▲33.4
H 24.05 (n=122)	▲3.3	3.3	▲4.6	0.0	▲17.6
前回調査比	(9.7)	(▲3.0)	(▲23.1)	(50.0)	(15.8)
先行き見通し	▲18.0	▲23.3	▲20.4	▲3.2	▲29.4
今回調査比	(▲14.7)	(▲26.6)	(▲15.8)	(▲3.2)	(▲11.8)

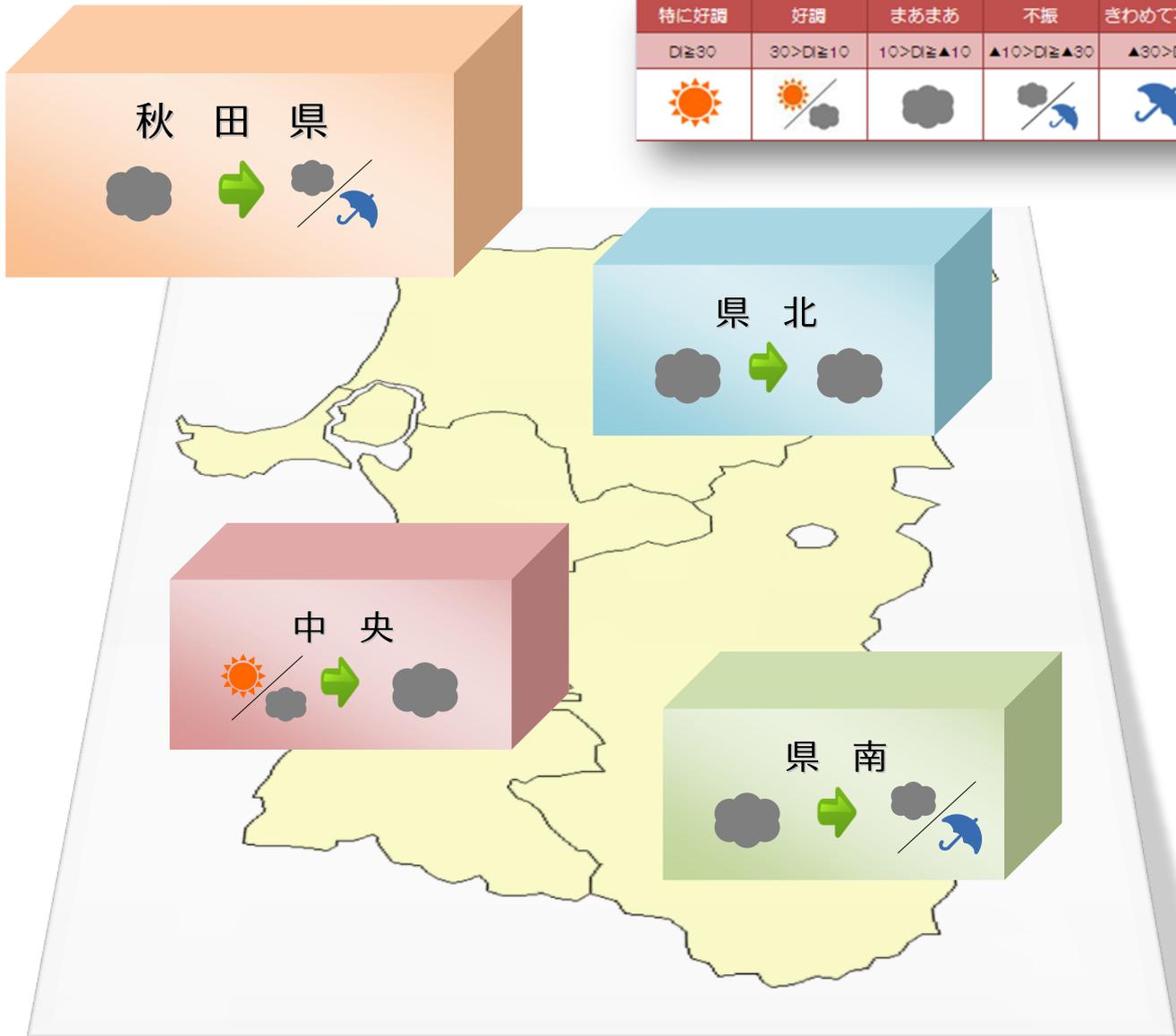
【参考】前期比の自社業況DI値

県南 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 23.08 (n=87)	▲2.2	▲37.5	18.7	0.0	25.0
H 23.11 (n=79)	6.3	11.1	23.1	▲21.0	6.3
H 24.02 (n=77)	▲9.1	6.3	18.5	▲35.0	▲33.4
H 24.05 (n=122)	▲13.9	▲13.3	▲15.9	▲16.1	▲5.9
前回調査比	(▲4.8)	(▲19.6)	(▲34.4)	(18.9)	(27.5)

## II. 景気の天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

来期の見通し

	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設				
製造				
卸・小売				
サービス				



	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設				
製造				
卸・小売				
サービス				

### III. 特別調査

#### 1. 夏季ボーナスについて

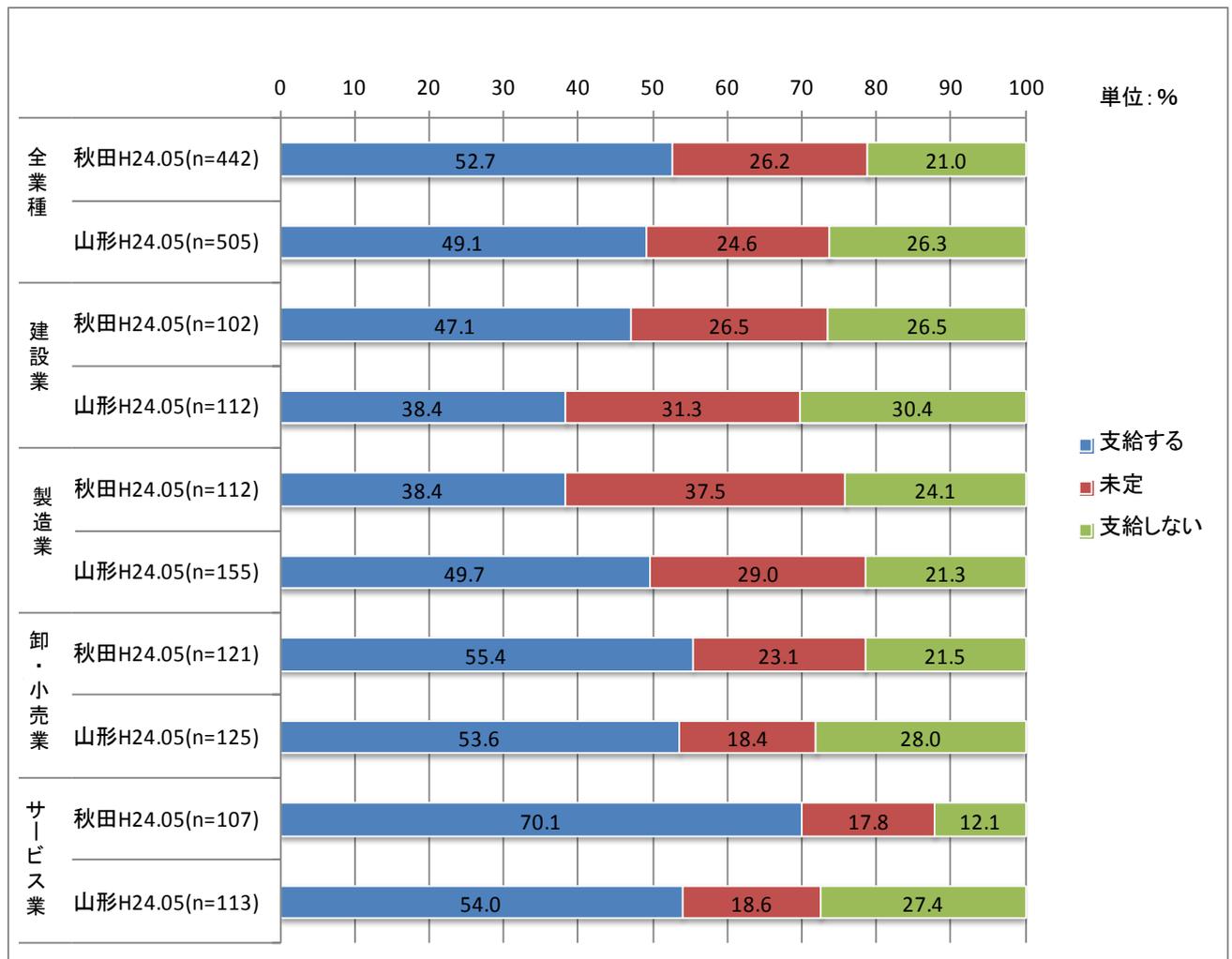
##### (1) 支給予定動向

支給予定企業は 52.7%

夏季ボーナスの支給動向(予定)について尋ねたところ、回答企業(442社)の52.7%が「支給する」と回答しており、今回調査の山形(49.1%)の割合を3.6ポイント上回った。一方、「支給しない」と回答した企業は21.0%で、山形(26.3%)に比べて5.3ポイント低い割合となった【図表16】。

また、業種別にみると、「支給する」の割合はサービス業で70.1%と最も高く、次いで卸・小売業が55.4%で続き、以下は建設業(47.1%)、製造業(38.4%)の順となった。これを今回調査の山形と比べてみると、製造業の割合が山形より低かったものの、サービス業を始め、非製造業の各業種ではいずれも秋田の方が高い割合となっている【図表16】。

図表 16 業種別「夏季ボーナスの支給動向」(秋田、山形の比較)



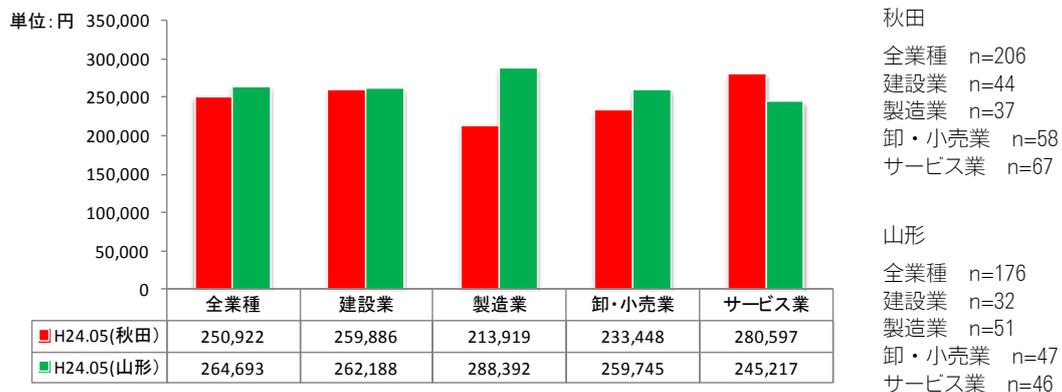
(2) 支給予定額について

支給予定額は 25.1 万円

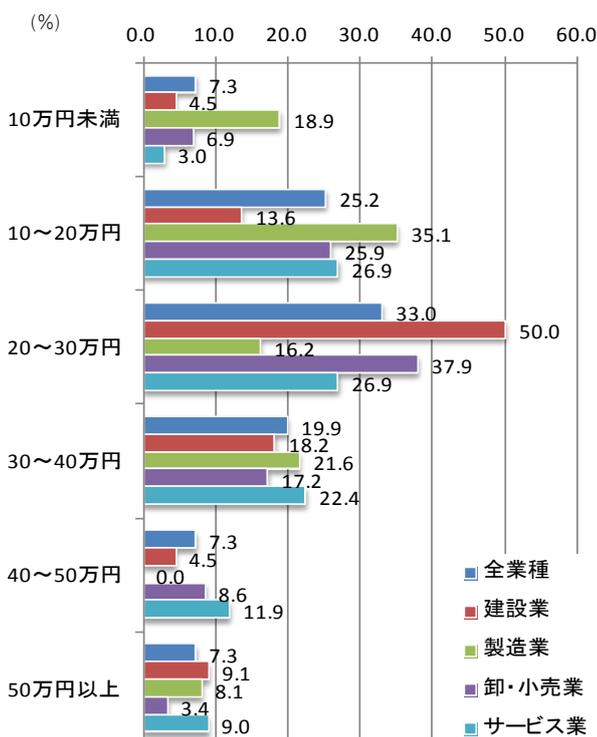
夏季ボーナスの支給予定額について尋ねたところ、全業種平均(206社)で25.1万円となり、今回調査の山形の全業種平均(26.5万円)に比べて1.4万円程低い金額となった【図表17】。

業種別にみると、サービス業の平均支給予定額が28.1万円と最も高く、一方、製造業の平均支給予定額が21.4万円と最も低い金額となった。これを今回調査の山形と比べてみると、サービス業では秋田の平均支給予定額が高かったものの、製造業を始め、他の業種ではいずれも山形の方が高い金額となっている【図表17】。また、業種別の平均支給額の分布をみると、「20万円～30万円」を中心として、総じて各業種において「10万円～40万円」に金額が集中しており【図表18】、平均支給月数については建設業の47.7%を始めとして、各業種において「1.0～1.5ヵ月」が最も高い割合を示している。

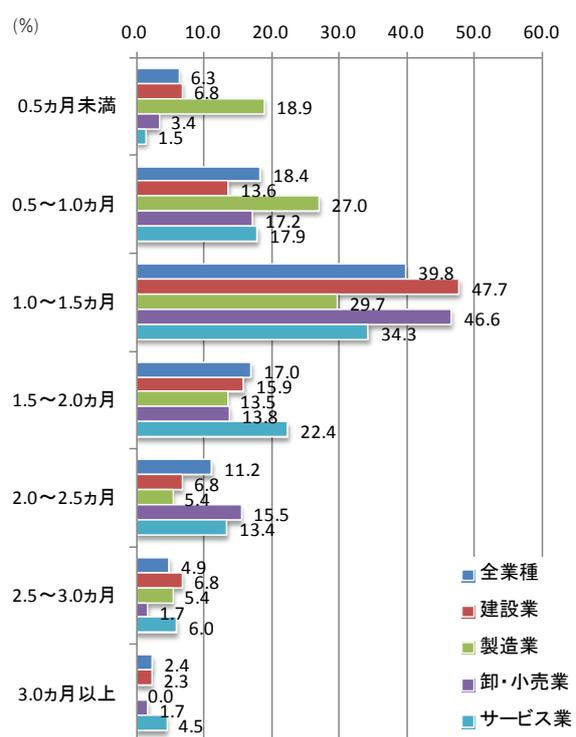
図表 17 業種別「夏季ボーナスの平均支給額」(秋田、山形の比較)



図表 18 業種別「夏季ボーナスの平均支給額」



図表 19 業種別「夏季ボーナスの平均支給月数」



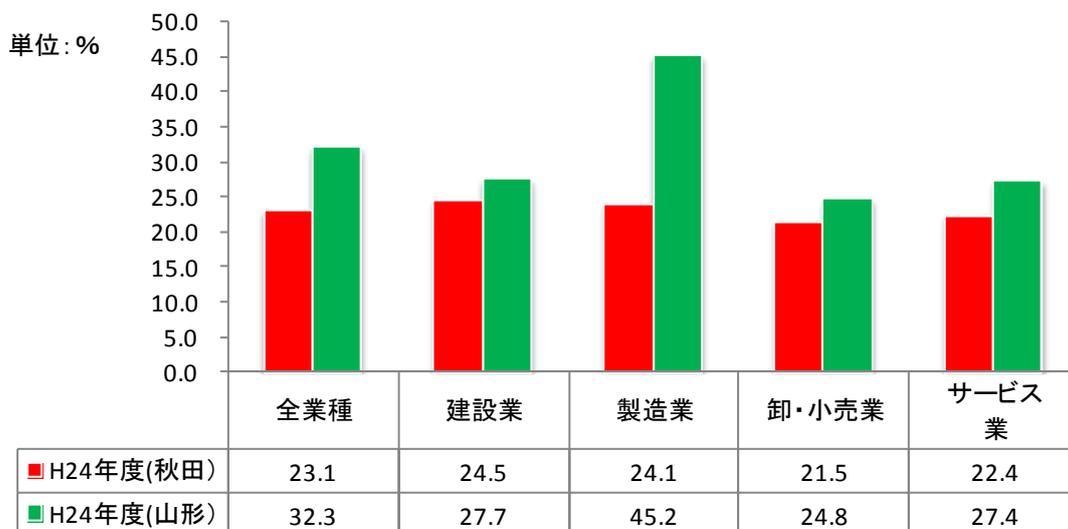
## 2. 新卒者の採用状況について

採用率は 23.1%

平成 24 年度の新卒者の採用状況について尋ねたところ、全業種で 23.1%の企業が新卒者を採用したと回答しおり、今回調査の山形の 32.3%に比べて 9.2 ポイント低い割合となっている。

業種別にみると、建設業の採用率が 24.5%と最も高く、他の業種もいずれも 2 割台とほぼ同様の割合を示している。これを今回調査の山形と比べてみると、製造業では山形の 45.2%に対して秋田は 24.1%であるなど、各業種とも山形の方が高い割合を示しており、秋田の新卒者の採用状況の低調さが窺える結果となった。【図表 20】。

図表 20 業種別「新卒者の採用状況」(秋田、山形の比較)



## 第4回 秋田県内企業景気動向調査



株式会社 フィデア総合研究所  
The FIDEA Research Institute Corporation.

### <参考資料Ⅰ：業種別・地域別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	25	22	27	22	96
中央	73	66	93	86	318
県南	39	57	44	30	170
合計	137	145	164	138	584

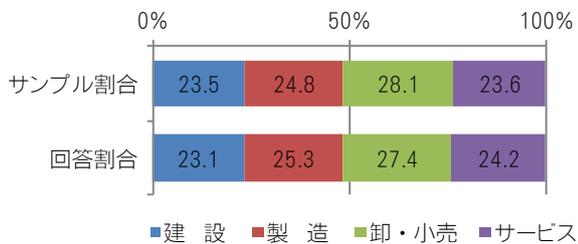
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	18	17	22	18	75
中央	54	51	68	72	245
県南	30	44	31	17	122
合計	102	112	121	107	442

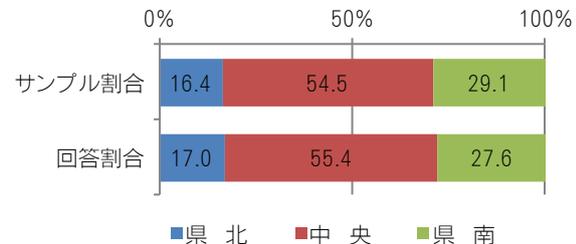
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	72.0	77.3	81.5	81.8	78.1
中央	74.0	77.3	73.1	83.7	77.0
県南	76.9	77.2	70.5	56.7	71.8
合計	74.5	77.2	73.8	77.5	75.7

(業種別：%)



(地域別：%)



### <参考資料Ⅱ：調査の概要>

#### ● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した。

#### ● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査(一部FAXを利用)。

#### ● 調査期間

平成24年5月7日(月)～17日(木)

#### ● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
県北	大館市、能代市、北秋田市、鹿角市、三種町、八峰町、小坂町、藤里町、上小阿仁村
中央	秋田市、由利本荘市、潟上市、男鹿市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
県南	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

## ● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採っている。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている。

項 目	選択肢 (択一方式)		
自社の業況 (共通項目)	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない	2. ちょうどよい	3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった	2. さほど変わらない	3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
製(商)品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った

(注)各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採っている。

## ● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれD I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、算出方法は次の通り。

例)自社の業況D I 値

$$= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)$$

たとえば「自社の業況D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向(良くなっているか、悪くなっているか)についても分かる。

ちなみに、他のD I 値についても同様に、選択肢「1. 」(表 4「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する。

### <お知らせ>

F S N会員専用ホームページ(<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>)にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ(<http://www.f-ric.co.jp/>)「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

### <お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所 研究開発グループ／後藤正彦／高橋富<sup>とみ</sup>偉

#### ・山形本社

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8F  
TEL : 023-626-9017 Fax : 023-626-9038 E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp  
URL : <http://www.f-ric.co.jp>

#### ・秋田本部

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-1-41 北都銀行本店 8F  
TEL : 018-837-1727 Fax : 023-834-5508